

みずほCustomer Desk Report 2022/08/02号 (As of 2022/08/01)

市場営業部 為替営業第二チーム

【昨日の市況概要】

	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	公示仲値 GBP/USD	132.91 AUD/USD
TKY 9:00AM	133.37	1.0208	136.11	1.2168	0.6972
SYD-NY High	133.56	1.0275	136.28	1.2291	0.7048
SYD-NY Low	131.60	1.0195	135.00	1.2165	0.6969
NY 5:00 PM	131.60	1.0260	135.00	1.2254	0.7027
	終値	(前日比)		終値	(前日比)
NY DOW	32,798.40	▲ 46.73	日本2年債	▲0.0900%	0.0000%
NASDAQ	12,368.98	▲ 21.71	日本10年債	0.1800%	0.0000%
S&P	4,118.63	▲ 11.66	米国2年債	2.8853%	▲0.0032%
日経平均	27,993.35	191.71	米国5年債	2.6534%	▲0.0269%
TOPIX	1,960.11	19.80	米国10年債	2.5866%	▲0.0702%
ソコ日経先物	27,905.00	▲ 95.00	独10年債	0.7590%	▲0.0635%
ロンドンFT	7,413.42	▲ 10.01	英10年債	1.8065%	▲0.0440%
DAX	13,479.63	▲ 4.42	豪10年債	-	-
ハンセン指数	20,165.84	9.33	USDJPY 1M Vol	11.52%	0.15%
上海総合	3,259.96	6.72	USDJPY 3M Vol	10.85%	0.02%
NY金	1,787.70	5.90	USDJPY 6M Vol	10.32%	▲0.06%
WTI	93.89	▲ 4.73	USDJPY 1M 25RR	▲1.17%	Yen Call Over
CRB指数	286.11	▲ 5.96	EURJPY 3M Vol	12.52%	▲0.11%
ドルインデックス	105.45	▲ 0.45	EURJPY 6M Vol	12.06%	▲0.15%

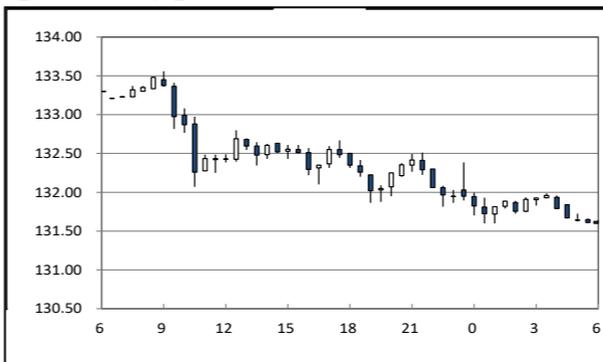
【昨日の指標等】

Date	Time	Event	結果	予想
8月1日	15:00	独 小売売上高(前月比)	6月 -1.6%	0.3%
	18:00	欧 失業率	6月 6.6%	6.6%
	23:00	米 建設支出(前月比)	6月 -1.1%	0.1%
	23:00	米 ISM製造業景況指数	7月 52.8	52

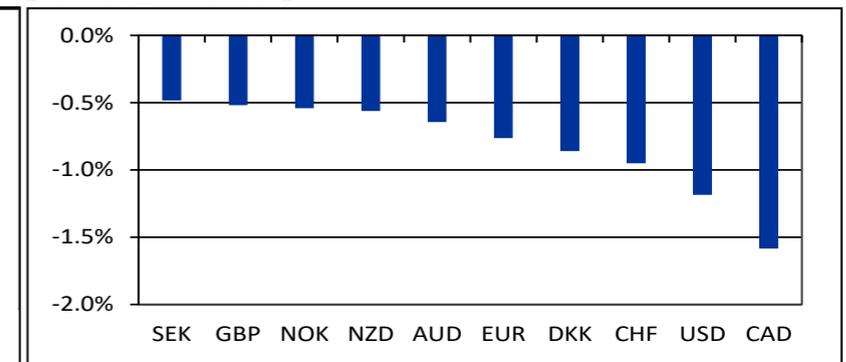
【本日の予定】

Date	Time	Event	予想	前回
8月2日	13:30	豪 RBAキャッシュレト	2-Aug 1.85%	1.35%
	23:00	米 エバンス・シカゴ連銀総裁 講演	-	-
8月3日	01:00	米 メスター・クリーブランド連銀総裁 講演	-	-

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【予想レンジ】

通貨ペア	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY
想定レンジ	130.00-132.30	1.0150-1.0300	133.00-136.00

【マーケット・インプレッション】

世界的な景気減速懸念に加え、Fedのタカ派スタンスがやや後退したことで、ドル円は軟調な展開となっている。昨日は米だけでなく、中国や台湾をはじめ各地の経済指標が冴えない結果に。加えて、サル痘の感染拡大やペロシ米下院議長の高台湾訪問に関する報道を受けた米中関係の先行き不透明感が市場心理を圧迫している。斯かる状況下、今年の3月から続いたドル買いのポジションは、夏休み休暇に入るといっても相俟って、一旦は解消の動きが出ていると考えられ、この6か月間で約25円も円安が進行したことを踏まえれば、ドル円の調整はまだ継続すると考える。6/16につけた131.48を下抜ければ、次の目途は節目130円が意識される展開か。

東京	東京時間のドル円は133.37レベルでオープン。中国や台湾で発表された経済指標が相次ぎ下振れ、世界的な景気減速への警戒感から円買いの展開に132.07まで下落。その後はやや値を戻すも132.51レベルで海外に渡った。
ロンドン	ロンドン時間のドル円は、132.51レベルでオープン。ドルは全面安の展開で、一時131.87まで売られるが、午後に米指標を控えて反発するとドル円は結局ほぼ変わらずの132.42レベルでNYに渡った。
ニューヨーク	中国7月製造業PMIが景気分岐である50を割り込みセーフティの円が買われる中、今後の米利上げのペースは会合毎に経済指標で決まることからドル売りも継続し、海外市場のドル円は一時131.87まで下落し、132.42レベルでNYオープン。朝方は円買いが継続したことから131.82まで下落するが米国製造業PMI(確報値)が若干下方修正されたがドル円の反応は限定的となるが、続いて発表の米7月ISM製造業景況指数が予想を上回り132.38まで戻す。しかし内容は新規受注が2か月連続で50を下回り、需要の鈍化傾向が続く中再びドル売りが持ち込まれ131.60まで下落する。午後は一旦131.98まで戻す局面もあったが米長期金利が低下する中再び131.60まで下落し、本日の安値の130.60レベルでクロスした。一方、ユーロドルはユーロ円が下落する一方、ドル売りに下値をサポートされ1.0234レベルでオープン。朝方はユーロ円が上値を重くする中1.0227まで下落するが、ドル売りに1.0262まで戻す。その後ISM製造業景況指数結果を受け一旦下押しするものの、米長期金利低下を受け1.0275まで戻す。午後に入り1.0246まで下押しする局面もあったが米金利低下を受けたドル売りが継続し、1.0260レベルでクロスした。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償のみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

担当: 逸見